

翌 18 日（日）は、フィールドワークだ。バス一台をチャータした。補助席まで満席の 58 名、あと数名が自家用車で追いかけた。南部マラソン大会と重なっていたが、訪問順序変更などによって交通渋滞をクリアーし、その日の飛行機便の人は那覇空港

で、その他の人は沖縄県庁前で解散となった。

山城地区では、具志堅隆松さんの案内でフィールドワークした。ここは朝鮮人軍属部隊である「水勤102 中隊」が斬り込み攻撃に動員され全滅したところだ



中央の青いヤッケが具志堅さん

次に訪ねた米須地区は写真家の大城弘明さんが案内してくださった。自然壕のアガリングマとウムニーガマがある。そこに住民の避難壕だったが米軍に追われた日本軍が入ってきた。米軍の投稿呼びかけに日本軍は応じず住民の投稿も許さなかったので、ガスリンやガス弾が投げ込まれ全員が死亡した。アガリングマでは 50 家族 159 名、ウムリーバマでは 28 家族 71 名が犠牲になった。逆に別のガマでは日本軍が来なかったのが住民が助かったガマ（同じ糸満市潮平権現壕）もあったという。大城さんは地域の住民を調査し、詳細な犠牲者地図を作っている。その地図に感銘をうけた。



米須地区の忠霊の塔、犠牲者の名前が刻まれている



同地区の祠、一家全滅となり祠だけが残っている

大度海岸には日本軍や住民が隠れたガマがそのまま残っている。とてもきれいな海岸で、リーフ、イノー（サンゴ礁に囲まれた浅いおだやかな海）、礁池

（潮が引いたときにできる池）がある。礁池でたくさんさんの熱帯魚をみてみんな興奮した。（この感動を動画でうつして飛田 Facebook「飛田雄一」で検索）にはりました。前日の金城さんのゲダ踊りもアップ。



大度海岸の自然壕

そのほか、韓国人慰霊の塔、平和の礎（いしじ）を訪問した。平和の礎では、朝鮮人、韓国人の刻銘について現地平和ガイドによる詳細な説明があった。新しい研究により判明した事実も教えてくださったが、ここではその内容は紙面の都合で紹介できない。必要な方には PDF ファイルで送ります。メール hida@ksyc.jp をください。



韓国人慰霊の塔／平和の礎

19 日（月）は、公式フィールドワーク②「辺野古座込み連帯行動」だ。が、私は、オプションの読谷ツアーにでかけた。メンバーは 3 名、それに平和ガイド 2 名と特別ガイド知花昌一さんと金城実さんがつくという豪華ツアーだった。金城さんのアトリエでは、金城さん制作の「神戸電鉄・朝鮮人労働者の像」の本物と対面した。さらに翌 20 日、国際市場をうろろして神戸空港にもどったのでありました。充実の沖縄 6 日間でした。

